



陵陽

令和8年(2026年)3月13日(金) 第12号

第六十四回 卒業証書授与式 式辞

校長 ●●●●

雪に覆われた北国にも、ようやく「春の訪れが感じられる季節」となりました。そのような中、札幌市立陵陽中学校、第六十四回卒業証書授与式を、盛大に挙げてまいりましたことを大変嬉しく思います。

第六十四期の皆さん、卒業おめでとうございます。

三年間、皆さんは学び、悩み、挑戦し、大きな成長を遂げました。授業での取組、学校祭の作品やステージ発表、部活動、そして合唱。後輩たちは、「さすが三年生、いつか自分たちも、あのようになりたい」という姿を、たくさんの場面で残してくれました。そのような皆さんを、担任をはじめ、私たち教職員は、心から誇りに思っています。

卒業する皆さんに、二つのお話をします。

一つ目は、「未来に夢を描く」ことです。

先月、イタリア・ミラノのコルティアダンペッツォで冬季オリンピックが開催されたことは、皆さんも、まだ記憶に新しいことと思います。日本代表選手の活躍には、目を見張るものがありました。その中でも、日本のフィギュアスケート・ペア「りくりゅう」こと三浦璃来選手と木原龍一選手の活躍は、多くの人に勇気と感動を与えてくれました。二人は、最初から順風満帆だったわけではありません。前回、四年前の北京オリンピックでは、第四位という結果で、あと一步のところまでメダルに届かない悔しさを味わい大会を終えました。しかし、二人はそこで夢を終わらせはしませんでした。「もっと強くなりたい」「世界の頂点に立ちたい」その思いを胸に、地道な練習を積み重ね、失敗を恐れず挑戦し続けました。

そして今回臨んだオリンピック、まずは団体戦のペア滑走。ここで二人は、史上最高得点を叩き出します。これまで取り組んできた結果の表れです。おそらく、気分も最高潮だったと思います。ところが、それもつかの間、二人には大きな試練が訪れます。ペア戦に入り、ショートプログラムで、相手を持ち上げるリフトで失敗し、まさかの第四位となります。金メダルの夢が経たれたように思えた瞬間でした。木原選手は、フリープログラムが行われる試合当日の朝まで絶望感に襲われ泣き続けていました。しかし、そのような中でも、決して最後まで諦めなかった三浦選手が、木原選手を支え、励まし続け、そして、これに応えるように、木原選手もどん底から這い上がり、渾身の演技につながりました。あの演技を見た人たちもたくさんいたでしょう。二人の息の合った演技、とても優雅で美しい演技は、見る人すべての人の心に大きな感動を与えたことと思います。そして手に入れた金メダル。あの輝きは、才能だけではなく、夢をあきらめない心と、努力を続ける勇気が生んだものです。りくりゅうの歩みは、私たちに大切なことを教えてくれました。夢は、アップダウンの連続で、途中でつまずいても、時間がかかっても、あきらめなければ必ず道が開けます。

夢は、最初から小さくなくて構いません。「やってみよう」「好きかもしれない」そんな小さな気持ちも、未来の自分を動かす原点になります。そして夢は、努力を続ける人だけに姿を見せてくれます。これから皆さんは、それぞれの道へ進みます。新しい環境では、戸惑うこともあるでしょう。しかし、皆さんにはこの学校で培った力があります。仲間と過ごした時間があります。そして、未来を切り開く勇気があります。どうか、自分の可能性を信じてください。夢に向かって挑戦し続けてください。

夢を叶える秘訣、それは「絶対に諦めないこと」、「最大限の努力をすること」、「仲間を大切にすること」、そして「自分を信じること」です。

二つ目は、「出会い」を大切にすることです。

この出会いについては、これから旅立つ卒業生に対して、必ず決まって話をさせてもらっています。人の心に灯をともし、人生を豊かにするものは「出会い」です。

人生における出会いとして、「旅」「本」「友人」の3つを挙げる人がいます。

「旅」は、地域を尋ね、見て、聞いて、ふれ合うことを通して、感性を豊かにし、人間性を高めてくれます。

そして、「本」を読むことは、知識・理解を広め、物事を考える力を蓄え(たくわえ)させ、世界観を大きく伸ばしてくれます。

また、「友人」は、個人では限られている喜びや悲しみを共有し、関わり合いの中から、人生に彩り(いろどり)を与えてくれる宝物となります。

「旅」、「本」、さらには「友人」を通しての出会いは、豊かな心の育みにも、つながります。

出会い方には様々ありますが、機を逃さず、出会いに感謝をしながら、何事にも前向きに臨むことを期待しています。

皆さんのふるさは「陵陽」です。「陵陽文化」を合言葉に、陵陽中学校の校舎・歴史・先輩・後輩らは皆さんを応援しています。夢を描き、多くの人たちとの出会いを大切に、素晴らしい人生を歩むよう願っています。





卒業生お別れの言葉

卒業生代表 ●● ●●

日ごとに寒さがやわらぎ、春の訪れを感じる季節となりました。本日、私たち卒業生は3年間過ごした陵陽中学校を旅立つ日を迎えました。

3年前、期待と不安を胸にこの学校の門をくぐった日のことを、今でもよく覚えています。少し大きな制服に袖を通し、緊張しながら教室に入ったあの日から始まった中学校生活。最初は戸惑うことも多くありましたが、友達と出会い、日々を重ねる中で学校生活にも慣れ、多くのことを学びました。

学校祭、修学旅行など、さまざまな行事を仲間と共に乗り越えてきました。特に合唱発表会では、はじめは決して心が1つになっていたとは言えませんでした。しかし、練習を重ねていく中で、パートリーダーを中心に1、2年生に3年生らしい姿勢を見せたいと意識が変わっていきました。そして一人一人が協力し、多くの人を感動させられるような合唱を作り上げ、より絆を深めることができたと思っています。力を合わせ、励まし合いながら過ごした時間。そういった経験の一つ一つが、今では最高の思い出です。

3年間を共に過ごした仲間たちは、私たちにとってかけがえのない存在です。楽しい時間も悩んだ時も互いに支え合いながら歩んできました。皆と過ごした日々は、これから先も大切な宝物です。

在校生の皆さん。学校祭では、どの学年も素敵な発表になるよう、学級の垣根を超え協力して準備を進めていました。手を取り合い、1つの行事を成功させようと頑張る皆さんの姿に、とても心動かされました。そういった姿勢はこの先も必ず皆さんの力になってくれると思うので、大切にしていってください。また、これからの学校生活には多くの経験が待っているでしょう。陵陽文化である「挨拶」と「合唱」の伝統を、これからも受け継いでください。元気な挨拶は学校を明るくし、心を1つにした合唱は学校の大きな力となります。皆さんがこの伝統を大切にしながら、よりよい学校を築いてくれることを願っています。

先生方には、勉強だけでなく人として大切なことを教えていただきました。特に進路を考える中では、一人一人に向き合い、悩みや不安に寄り添いながら助言をいただきました。その支えがあったからこそ、私たちはここまで成長することができました。心より感謝申し上げます。

そして、今日まで私たちを支えてくださった保護者の皆様、本当にありがとうございました。いつも見守り励ましてくれたおかげで、私たちはここまで成長することができました。今日という日は義務教育を終える大きな節目です。これからは自分で考え行動する場面も増えていきますが、これまでの経験を胸に前へ進んでいきたいと思えます。どうかこれからも温かく見守っててください。

私たちは今日、この学び舎を旅立ち、それぞれの新しい未来へ歩みだします。この3年間で得た学びを胸に、自分の道を切り開いていく決意です。

陵陽中学校のさらなる発展を願い、お別れの言葉といたします。

在校生お祝いの言葉

在校生代表 ●● ●●

冬の終わりとともに、少しずつ春の気配を感じる頃となりました。3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今日という日を迎えるまでの道のりは、決して平坦なものではなかったと思います。悩み、立ち止まりながらも前を向いて歩き続けてきたその一步一步が、今の皆さんの姿につながっているのだと感じています。

皆さんと過ごした日々の中で、私達が特に心を動かされたのは、今年から始まった学年合唱発表会での歌声でした。一人一人の想いが重なり合い、学年として1つになった合唱は、聴く人の心に強く響き、最高学年としてのあり方を教えてくれるものでした。その姿は、私達下級生にとって大きな憧れとなり、自然と「こんな先輩になりたい」と思わせてくれました。

部活動や委員会、そして日常の学校生活の中でも、皆さんはいつも私たちに気をかけ、優しく声をかけてくださいました。その何気ない言葉や行動が、私達にとってどれほど心強かったかは、言葉では言い表せません。皆さんと共に過ごした時間は、私達にとってかけがえのない宝物です。在校生を代表して感謝を申し上げます。その思いを胸に、私は生徒会長として、この学校を皆さんから確かに引継ぐことを、ここに誓います。

特に皆さんが大切に守り、育ててきた陵陽文化、人に向き合う姿勢や、仲間を思う心は、これからも私達が大切にしていきます。皆さんが卒業した後の陵陽も「良い学校だ」と言ってもらえるよう、私達は歩み続けていきます。

これから皆さんは、それぞれの道へと進んでいきます。期待に胸を膨らませ、力強く前進する一方で、不安や困難に出会うこともあるかもしれません。しかし、これまで仲間と共に悩み、支え合いながら歩んできた皆さんならきっと乗り越えていけると私達は信じています。

3年生の皆さんのこれからが、希望に満ちた輝かしいものになることを、在校生一同、心から願っています。改めて本日はご卒業おめでとうございます。そして今まで本当にありがとうございました。